

# 常翔啓光学園中学校・高等学校内での発掘調査

## ● きん や ほん まち 禁野本町遺跡 第168・220次調査

学校は、<sup>きん や ほん まち</sup>禁野本町遺跡の南辺部に位置しており、南東約150mには特別史跡である<sup>くだら であ</sup>百濟寺跡があります。校内では、平成21年(2009)に1号館新築および駐輪場の整備に伴う発掘調査(第168次調査)と、平成28年(2016)に3号館新築に伴う第220次調査を実施しました。

調査では、古墳時代終わり頃の土器が出土した浅い窪み状の遺構や、<sup>ほったてはしらたてもの</sup>掘立柱建物・井戸・溝の跡など、奈良時代後半頃(8世紀後半)の宅地を発見しました。3号館の調査で見つかった奈良時代後半頃の掘立柱建物1(右図)は南北の建物で、同様の方位をとる溝1は土地を区画するための溝でしょう。一方、西側で検出した溝2は、方位が異なっており、地形の傾斜に沿って設けられた排水溝とみられます。南側の区域は遺構が少ないことから、小さな広場とみられ、1号館と3号館の調査では、それぞれ井戸が見つっています。

これらの建物や区画溝は、百濟寺やその北に広がる禁野本町遺跡の碁盤目状の街区とほぼ同じ方位をとっており、<sup>くだらのこにきしし</sup>百濟王氏が計画的にまちづくりを行ったものと考えられます。



奈良時代の地面

発掘調査の作業風景(3号館)



学校と百濟寺跡の航空写真(平成2年、南東から撮影)